

小笠原村教育委員会教育長
松本 隆 様

小笠原村立小笠原中学校長

新妻 茂 公印

平成30年度 小笠原村立小笠原中学校 評価報告書

標記の件について、下記のとおり報告します。

記

1 本校の教育目標

[教育目標]

- よく学び、考え、行動する人
- やさしくたくましい人
- 社会の一員として貢献できる人

[学校経営方針における教育活動の目標]

- 最重要課題 学力向上（授業力向上）

Key word: Breakthrough（難関や壁の突破、行き詰まりからの進展）

- ・学ぶ意欲の喚起
- ・学習習慣の確立
- ・自分の学びに自信を

2 学校関係者評価の概要

【保護者】（小笠原村立小笠原中学校 保護者アンケート集計結果 参照）

[実施状況]

- 平成30年12月に実施した。47名、回収率92.1%
- 21項目で実施。経年比較ができるよう、アンケート内容は例年と同じとした。
- 方法は生徒を通じて配布し封筒を使用して回収した。
- 学校便り1月号に一部掲載。3月保護者会および学校ホームページで公開する。

【保護者アンケート集計概要】

- 肯定 80%以上 15項目
- 80%未満 5項目
- 肯定が最も高い項目
- 設問 1 学校だよりや保護者会等を通じて、学校や学級の方針をわかりやすく伝えている。（肯定100%）
- 肯定が最も低い項目
- 設問 20 学校ホームページを活用している（見たことがある）。（肯定37%）
- 肯定が昨年度より10%以上上昇した項目 13
- 設問 21 学校Facebookを活用している（見たことがある）（+16%）
- 設問 3 保護者会（4・10・3月）や面談（4・12月）等、保護者の方に来校していただく機会は、適切な時期・内容で設定されている。（+15%）
- 設問 12 全教員で道徳授業に取り組むことで、生徒の道徳性が高まっている。（+15%）
- 設問 6 学習指導全般において、基礎・基本の定着に努めている。（+13%）
- 設問 13 授業の中で、情報教育（情報モラル教育・操作指導・情報の取捨選択等）を進めている。（+13%）
- 設問 14 日頃から日常生活のマナーや社会のルールについての指導が行われている。（+13%）
- 設問 16 生活指導上の諸問題（いじめ等を含む）に対して適切な指導が行われている。（+13%）
- 設問 1 学校だよりや保護者会等を通じて、学校や学級の方針をわかりやすく伝えている。（+11%）
- 設問 4 教員は教科指導や生活指導等、教育活動全般に熱心に取り組んでいる。（+11%）

- 設問 5 教員は、生徒が授業内容を理解できるよう、指導方法や教材研究等、授業改善に取り組んでいる。
(+11%)
- 設問 9 生徒の学習状況や成果(評価)を、通知表やアドバイスカード等を通し、適切に伝えている。
(+11%)
- 設問15 防災や防犯、交通安全などの安全指導が、避難訓練などを通じて適切に行われている。(+11%)
- 設問20 学校ホームページを活用している(見たことがある)。(+11%)

- 肯定が昨年度より低下した項目 0
- 肯定が昨年度より上昇した項目 19

[分析]

- アンケート回収率は昨年度の回収率より5.1%上昇した。
- 【学校運営・経営方針】の全ての項目で肯定が98%以上という高い評価になった。
- 【学校生活全般】の全ての項目で肯定が80%以上という良い評価になった。
- ホームページや Facebook などモバイル端末を活用とした情報発信について昨年度よりは肯定の値が上昇したものの評価は低い。

[次年度に向けて]

- 【授業・学習】の項目で肯定の値が上昇したとはいえ、全ての項目が80%を超えているわけではない。60%を割った項目もある。研究授業を行い教員の授業力を向上させるとともに、特別な教科である道徳科や情報教育を推進する。
- ホームページや Facebook からの配信について工夫改善するとともに、広報活動をさらに充実させていく。

【生徒】(小笠原村立小笠原中学校 授業アンケート集計結果 参照)

[実施状況]

- 年2回6月に全ての教科で11項目、11月に5教科10項目4教科11項目の授業アンケートを全校生徒に実施した。
- 授業のねらいを踏まえ生徒の実態から授業改善の成果を上げるために授業アンケートの項目の見直しを行った。
- 1学期で肯定の値が高い項目
- 設問6(共通) 授業で使う道具やワークシートなどの教材は効果的でしたか。(98.5%)
- 設問5(共通) 授業で先生の「声の大きさ」や「説明」はちょうど良く分かりやすいと思えましたか。(98.2%)
- 設問10(5教科) 授業で先生の「板書」は見やすいと思えましたか。(98.2%)
- 2学期で肯定の値が高い項目
- 設問10(5教科) 授業で先生の「板書」は見やすいと思えましたか。(98.9%)
- 設問6(共通) 授業で使う道具やワークシートなどの教材は効果的でしたか。(98.7%)
- 設問5(共通) 授業で先生の「声の大きさ」や「説明」はちょうど良く分かりやすいと思えましたか。(98.5%)
- 1学期で肯定の値が低い項目
- 設問9(5教科) 定期考査に向けた学習に取り組んだ。(81.2%)
- 設問9(4教科) 定期考査に向けた学習に取り組んだ。(84.5%)
- 設問7(5教科) 「宿題」や「提出物」を期限内にきちんと提出している。(86.7%)
- 2学期で肯定の値が低い項目
- 設問9(5教科) 定期考査に向けた学習に取り組んだ。(86.2%)
- 設問7(5教科) 「宿題」や「提出物」を期限内にきちんと提出している。(90.5%)
- 設問9(4教科) 定期考査に向けた学習に取り組んだ。(91.6%)
- 1学期から2学期で肯定の値が上がった項目数
14項目
- 1学期から2学期で肯定の値が下がった項目数
0項目

[分析]

- 1学期と2学期の結果を比較すると肯定の値が上がった項目が93.3%であり、2学期は全ての項目で肯定の値が85%以上となった。
- 肯定の高い項目は1学期、2学期ともに同じである。教員の指導技術、教材開発に係わる項目であった。
- 肯定の低い項目は1学期、2学期ともに同じである。また、この項目は家庭での学習に係わる項目であった。

[次年度に向けて]

- 目的意識を明確にし、生徒の関心・意欲が高められるよう、生徒の実態を踏まえた授業改善を推進する。
- 生徒の学習意欲を高め、生徒の家庭での学習習慣を確立する。

3 本年度の取組内容及び自己評価

	本年度の 重点目標	具体的な取組内容	取組内容の自己評価
取 組 み ①	<p>学習習慣の確立</p> <p>個々の学習習慣を確立するために進路学習部を中心に組織的に取り組む。進路学習だよりの定期的な発行により啓発を図る。</p>	<p>○生徒各自の学習関係の資料を一つにまとめ、自分で振り返りや面談等の充実を図る。</p> <p>○考査前を中心とした学習会(補充教室)の実施</p> <p>○進路通信の定期的な発行を中心とした本人及び保護者への意識啓発</p> <p>○家庭学習ノートの提出を促し、学年便り等で成果を認める。</p>	<p>各教科からのアドバイスカードの工夫改善を図り、個別面談等で活用したことで、個々の学習目標を具体化することへの一助になった。</p> <p>キャリア教育等と併せ、生徒に目的意識を持たせる取組みができた。</p> <p>家庭学習ノートの活用で学習習慣を確立した生徒が増え、習慣化されている生徒も多くなった。</p>
取 組 み ②	<p>道徳教育とキャリア教育の推進</p> <p>学ぶための動機づけや学習習慣の確立、困難なことに立ち向かうための基盤として、道徳教育とキャリア教育をとらえなおし、全教育活動を通して展開する。</p>	<p>○道徳教育</p> <p>・システムとしてはこれまでのものを継続</p> <p>○キャリア教育</p> <p>・3年間を見通したキャリア教育の構築</p> <p>・修学旅行において、上級学校訪問に加え、「企業」訪問を実施する。</p>	<p>○道徳教育</p> <p>毎回の授業において各学年で検討し指導案を作成した授業後は参観者から授業者へ助言を行い授業改善に努めた。狙いとする価値に近づいている。</p> <p>○キャリア教育</p> <p>職場体験や職業についての講話など地域との連携により充実した内容になった。</p> <p>今年度は企業訪問を実施した。生徒にとって自分の生き方を考える契機となった。</p>
取 組 み ③	<p>人権教育の推進</p> <p>生徒の人格を尊重する趣旨から呼び捨てにせず敬称を付けて呼ぶとともに教員・生徒の言語環境を整えていく。併せて校訓の趣旨を徹底する。</p>	<p>○生徒に敬称をつけて呼ぶなど、平素の教員・生徒の言語環境を見直す。</p> <p>○いじめ、体罰等の教育課題に積極的に取り組むために、ふれあい月間などを機会としアンケート調査の実施をする。</p> <p>○教員の資質向上を図るための研修会の充実・生活指導部を中心とした組織的な対応をする。</p>	<p>教員が生徒との関わりを多く持つことができた。この中で敬語や丁寧語の習慣が昨年度より確立した。言語環境を整える取り組むことができた。また、生徒からのアンケート結果や日頃の生活をいじめ対策学校サポート協議会で報告した。関係機関、地域からの助言をいただくことができた。生徒への適切な指導ができた。</p> <p>また、人権教育に関しては、集団生活を向上させる基盤と考え、道徳と併せ指導を行うことができた。</p>
取 組 み ④	<p>○J T体制の確立と充実</p> <p>若手教員育成と教育活動継続性が急務である。危機感をもって取り組む。</p>	<p>○若手教員育成研修体制を整え教員育成を図るとともに、若手教員だけでなく主任教諭を中心に○J T体制を、確立し回議を徹底させる。</p> <p>○全教員が年1回以上の研究授業を実施する。</p> <p>○内地での夏季研修等への積極的な参加する。</p>	<p>教員の資質向上は、次年度も実態に合った○J Tを構築し、危機感を持って行っていく必要がある。</p> <p>研究授業を行い、その協議会では授業力の6要素を明確にし、協議を行った。また、学習評価や特別支援の視点等、多面的な改善に努め、日頃の授業等、学習活動で生かすことができた。</p>

*上記のことを踏まえて、次年度の学校経営方針及び教育課程を作成いたします。